

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	グループホーム理念・地域住民と交流を深め家庭的な環境の中で共に生きていくこと。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	理念の共有化を図る為、場面毎、コミュニケーションとっている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の女性楽級などと交流を図っている。	○	シルバー人材センターの研修の受け入れをした。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は職員で取り組み、改善に向けて具体案の検討やサービスの向上に努めている。	○	今回、自己評価表を全職員で話し合いながら取り組むことができた。地域密着型サービスの把握に繋げていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	柳川市の福祉課、老人会長、地域の区長、民生委員や利用者の家族の方々に参加して頂き、利用者の概要、報告、行事、資料配布、アルバムを提示し今後の予定等経過報告している。双方の質問にも対応している。	○	会議録を玄関に提示し公表している。問題点は寮母会議で報告し話し合い職員間で必要と思われる事は、申し送りノートに記入し把握し合っている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に参加の折、意見交換を行っている。市町村とは直接には連携は行われていない。	○	敬和苑の在宅介護支援センターと連携をとっている
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者に成年後見人制度を利用している人はおられないが、必要となった場合の為に知っておく必要がある	○	寮母会議で地域権利擁護事業、成年後見制度を学習し、資料配布した。職員全体で説明出来るように定期的に学習の機会をつくっていききたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待などはない。一人一人ゆとりをもって言葉使いなど、注意を払い利用者に接している。	○	言葉使いなど、職員間で日々努力はしている。月一回の寮母会議で確認している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や入所、退所の際、書面を渡し説明し納得されている。 面会時や疑問が生じた場合も説明し理解されてる。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に食事の不満や苦情をその都度聞くようにしている。	○	利用者と信頼関係を築き、苦情を聞け改善できる環境づくりをしていきたい
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時、家族に現況、状態報告を行い、コミュニケーションに努めている。面会に来られない家族には、電話で近況報告している。 三か月に一回、敬和苑たよりを発行している		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱に投書はないが利用者に対する意見等本部や主任、職員に話していただいております、改善、解決に取り組んでいます。	○	何でも話せるような家庭的雰囲気作りに努力している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員の意見や提案は上司へ毎日の朝礼や週一回の業務会議で意見交換を行う。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事がある場合、増員したり職員の希望を聞き、話し合い調整して勤務表を作成する。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動は本部で行っている。通常は4月に人事異動があるが、突然の異動もありうる。異動職員には利用者状態把握シートや職員からの申し送りにて、早急に利用者を把握できるよう配慮している。	○	4月の異動は利用者に配慮し最小限に抑えている。
5. 人材の育成と支援				
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用条件として夜勤可能な方、性別、年齢に関係なく採用。全員福利厚生に加入、休みの希望もとりにいれている。職員間では、長所をいかし合い、短所を他職員で補いあっている。		
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員には、定期的に研修に参加してもらい、また毎月15日の全体勉強会で人権問題の研究発表会を行ったり、月一回の寮母会議でも繰り返し行っている。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修に行っている。		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と電話での交流のみである。	○	他事業所の訪問等から交流を図りたい。
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の悩み事などを話せて聞いてもらえる環境づくりをしている。 職員の体調に留意して、声かけ傾聴し対応する。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修に参加して向上心を持ち、担当を決め責任感を持って仕事に取り組んでいる	○	もっと研修を増やしていきたい
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所時に本人家族から情報を得ている。 困っている事、求めている事を面会に見えた時等に傾聴するように努めている。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時、利用者、家族と談話し、日頃の近況や体調、食事状況の報告を行い、現在に至る生活歴や会話の中で家族の状況を聞く機会を得ている。		
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた場合、他のサービス利用が必要であれば、選択肢や方法を説明している。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人に確認したり、家族に尋ねながら利用者の方にあったサービスが提供できるよう心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常日頃より、職員間で利用者の方々は人生の先輩であると認識できており、実際教えていただくことが多い。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションも大切にしている。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	広報誌を3か月に一回発行している。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の知人や併設しているデイサービス、ケアハウスより、よく遊びにこられる。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の口喧嘩たまにあるがすぐに仲直りしている	○	体調管理や、気分転換を図りながら仲良く暮らしやすい支援をしていきたい
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	本部の特別養護老人ホームに入所された方のところには時々面会や声かけを行う。 その他の退所された方との関わり合いはない	○	今後、季節のお便りなどを届けたりしていきたい
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時、本人の希望を聞き取り家族、担当者、職員、主治医の意見を参考にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルをつくり職員がいつでも閲覧できるようにしている	○	過去の生活歴を家族等、面会者より聞き取りしてよりよく暮らしていただけるように生かしていきたい
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	当日、勤務した職員は個人の記録紙に1日の様子を記入している。勤務に入る前には、前日からの記録や申し送りノートに目を通し仕事に入っている。一日二回、口頭にて申し送りもおこなっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望や家族の希望を聞いているが、なかなか詳しく入り込めない部分もあり聞き出せないこともある。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月～6か月毎にプランの見直しをしている。状態変化時等は聞き取りし会議後、新たに作成している。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、担当スタッフの意見、勉強会で検討したことを参考しながら見直しを行う。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時、特養からの応援頼む。看護師にアドバイスを得る等、協力体制がある。9種類の事業所があり、連携を取り合っている。	○	防災訓練、緊急マニュアルの作成をした

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎月一回ボランティアの方が来られ、季節に合わせた製作物を作ったり、歌を歌う。 不定期で外出時に同行していただいている。	○	小学校やボランティア団体の慰問には参加し交流を図っている。実習の受け入れにも協力している。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	事業所のケアマネジャーとは連携を取っている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	要支援者の利用者が入所された折、相談した。	○	権利擁護については、勉強会で職員へ講義している。玄関に成年後見人制度の手引きを提示しており、必要時は地域包括支援センターと協働したい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1/週の回診及び年2回、健康診断を行っている。	○	入所者に異変がある場合はいつでも主治医に電話対応や訪問診療の対応している。
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医の相談の下、家族と職員とが状態の把握しあい、専門的な病院の紹介してもらい、専門的立場からの意見をお聞きしたり相談にのっていただいている		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設している特養看護師に相談しアドバイスを得ている	○	併設の特養にて毎日、朝礼にて各部署担当者が利用者の健康状態を報告しており、特養看護師も出席していて、必要時は来苑し、状態の判断や処置などしてもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	面会時、担当医、看護師、地域連携室担当者、家族と病状、今後の状態状況を十分に聞いた上で話し合いグループホーム職員に申し送り 退院後の受け入れ体制を整えている		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に終末期の方向性を本人家族に尋ねている。また、不定期に終末期のあり方の再確認をしている。重度化した場合は、主治医より家族、ホームに話があり、三者で繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期は本人、家族、医師、職員とのチームケアで取り組んでいる。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移られた場合は、出来る限り情報提供し支援は行う。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録や書類は事務所内で管理しており、守秘義務や言葉かけも折に触れ注意を促している。 職場内の書類の持ち出しは禁止している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に応じた説明をして納得の上、自己決定を促すもできる方、できない方がいる、判断が不十分な方に対して職員が決めていることがある。	○	利用者が決定できる機会を増やしたい
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の要望を取り入れる努力はしているが、職員の都合にあわせることもある。	○	一人一人の楽しみを見出し、毎日、張り合いが持てる支援を目指したい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	昔からの行きつけの美容室に行く方がいる。2か月に1度出張散髪に来ていただき、希望者のみ顔そりも行う。 利用者の希望で髪染めを行う。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いは把握しており、嫌いなものの場合、違うもので対応する。食材の前処理や後片付けは利用者が出来る時にしていただいている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコ、お酒を飲む方が1名いる。		
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツ担当者をきめて、オムツ外しを実践しており、現在オムツ使用者はいない。	○	排泄パターンをつかむ取り組みとして月間排便チェック表を作成した。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調に合わせた入浴を行う為昼間のみ行っている。 入浴順序は利用者の希望にあわせている。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入眠時間などの制限はなく好きな時間に休息したり、寝てもらう。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入所者の特技や趣味など聞いており、塗り絵、計算問題、字の練習裁縫、カラオケなどを行い楽しんでいる。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金の管理をしている方が3名いる。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ゆとりがある時は、近場の苑外散歩や苑内散歩は行っている。 好きな時間に外出は出来ない。	○	職員の人数体制を確保し連携を摂り、気分転換を図りたい。
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年3回、バスハイクや買い物支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をされたり、手紙を書く方がいてその都度、支援している。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関前に花を植えたり、リビングに花を飾り、心地よい雰囲気に心がけている。 面会に来られた方には、リビングで寛いでいただいたり、他の利用者の方とお茶を飲んだりしてくつろいでいただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	寮母会議等で身体拘束についての把握に取り組んでいる。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は夜間のみで、日中はかけていない。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	徘徊時は付添いをし、職員には常に利用者の行動を把握しておくよう指導している。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤類、包丁等は、利用者の目の届かないところに保管している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒などの事故が起きた場合は、事故報告書を提出し原因を究明し同じことを繰り返さないよう事故防止に努めている。夜間帯を想定した防災訓練に参加した。	○	グループホームでの火災報知機による火災発生場所の把握と、避難経路の確認は実施した。
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応手順、初期対応は勉強会で取り上げ確認している。	○	連携した対応に努める。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域運営推進会議で避難場所の確認を行った。	○	地域運営会議に近じか消防の方が参加されることになり、具体的に検討していきたい。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族の方の面会時や起こり得るリスク時は今の状態説明を行い、今後起こり得ることをお話している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	緊急時連絡網の掲示や併設の職員、看護師との連絡体制は整えている。異変時は速やかに申し送りし、また意見交換も行う。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服用薬説明書はファイルに入れて、いつでも見られるようにしており、変更時は申し送りしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	服薬しないで自然排便ができるよう工夫している。 利用者の状態に応じた排便コントロールを排便チェック表で確認して行っている。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	うがい、義歯の清掃を指導する。毎食後、個人々に対応し、磨き残し部分は職員が行い、週一度義歯洗浄剤を使用する。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューのバランスを考え、栄養士さんにカロリー計算や献立のアドバイスをいただいている。 利用者の状態に応じた、飲食物の形状にも配慮している。	○	水分観察の必要な利用者に対しては水分摂取量の表に毎日、記入している。
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策マニュアルを作成している。 感染時は個室の居室にての対応をしている。	○	併設の特養に感染対策委員会を設置しており、連携して取り組んでいる。
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ガスレンジ、まな板、食器は夜勤者がハイター消毒している。 旬の野菜の購入し長期保存はしない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	常に明るい雰囲気を保つ為出入り口に季節の花を植えている。 玄関には、利用者の日頃の生活写真の展示をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、リビングにソファを置き、ウッドデッキにベンチを置いて自由にくつろげる空間をつくっている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	隣のユニットに遊び行ったり来たりして交流を図っている。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、本人の使いなれた物をもってきてもらう。布団、茶碗、湯のみなど本人の使いやすい物をもってこられる。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計、湿度計を設置し調整している。 掃除のときや一日を通し換気には気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングには、手すりをし、段差なく、使いやすい様にしている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来る事はしていただき、出来ないことを介助する基本は把握しているが、出来る事とわかっていながら、つい介助している事がある。	○	利用者の出来る事、出来ない事の把握をし、残存能力を生かせるような介助を指導していく。
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキにて日光浴、花を眺めたり、歌を歌う、時には足のマッサージをしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域密着の理念に基づき地域の方々と交流を深め連携しあう事で地域に根差したケアに努めています。地域の方々や家族の面会も多く、個人の意思を尊重し自由な雰囲気で過ごして頂いています。利用者の方も高齢者の方が多くなっており、目配り、気配り、思いやりにも徹しています。(3S運動の実施)また、利用者、家族等職員間のコミュニケーションを図り、状態に応じた取組みが出来るように意見交換しています。